

平成22年度病害虫発生予報第2号

平成22年4月28日
愛 知 県

1 普通作物

コムギは春先から降雨が多かったため生育ムラが目立っています。赤かび病の対策については、本日発表の「ムギ類赤かび病情報第2号」を参照してください。

イネもみ枯細菌病（苗腐敗症）は急激な温度変化やかん水ムラなどが発生を助長します。適正な温度管理などに気をつけましょう。

2 果樹

チャバネアオカメムシの越冬世代成虫は今のところフェロモントラップにはほとんど誘殺されていません。気温の上昇に伴い飛来するので、引き続き飛来状況に注意してください。詳細は、4月16日発表の「平成22年度病害虫発生予察注意報第1号」を参照してください。

ナシヒメシンクイの第1世代幼虫はウメやモモ新梢の芯折れを引き起こします。芯折れを確認したら早めに切り取り園外に持ち出し処分しましょう。また、第2世代以降による果実被害を防ぐために、薬剤防除を実施しましょう。

モモのカイガラムシ類の防除時期が近づいています。詳細は本日発表の「モモのカイガラムシ類情報第1号」を参照してください。

ナシ黒星病は、昨年発生が多かったほ場で、既に幼果での発生を確認しています。

ブドウ黒とう病は、降雨が続くと多発しやすくなります。前年の罹病枝や巻きひげは伝染源になりますので、切り取って園外に持ち出し処分しましょう。

3 野菜

タマネギべと病の発生は平年並の状況ですが、今後降雨が続くと発生量が増加するので、降雨後速やかに防除を実施しましょう。また、タマネギ黒腐菌核病の発生が見られるほ場があります。べと病、黒腐菌核病とも罹病株及び被害残さは次作の伝染源になるので、ほ場外に持ち出し適切に処分しましょう。

ナス、キュウリではミナミキイロアザミウマの発生が依然多い状況です。またキュウリでミナミキイロアザミウマが媒介するキュウリ黄化えそ病（MYSV）、トマトでタバコナジラミが媒介するトマト黄化葉巻病（TYLCV）の発生が多いほ場があります。それぞれ収穫終了後、残さを外に持ち出す前に施設を密閉して、媒介虫を死滅させましょう。

4 花き

キク（露地）では、気温の上昇に伴い白さび病やアブラムシ類、ハダニ類が増加する時期になりますので、親株床も含めて防除しましょう。

普通作物

・ 予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
イネ	いもち病 (苗いもち)	平年並	全域	前年の穂いもち発生量は平年並	±
	ばか苗病	平年並	全域	前年の発生量は平年並	±
	もみ枯細菌病 (苗腐敗症)	平年並	全域	前年の発生量は平年並	±
	ヒメトビウンカ	平年並	全域	前年の発生量は平年並	±
	イネミズゾウムシ	やや少ない	全域	前年の発生量はやや少なかった	－
ムギ	うどんこ病	平年並	全域	4月下旬現在、発生を確認していない 5月の降水量は平年並	± ±
	赤かび病	平年並	全域	4月下旬現在、発生を確認していない 5月の降水量は平年並	± ±

果樹

・ 予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ウンシュウミカン	そうか病	平年並	全域	3月の越年罹病葉率は平年並	±
	ミカンハダニ	やや少ない	全域	3月上旬の発生量は少なかった 5月の気温は平年並	－ ±
ナシ	黒星病	やや多い	全域	前年秋の発生量はやや多かった 4月下旬の発生量は平年並 4月の降水量は多かった 5月の降水量は平年並	＋ ± ＋ ±
	アブラムシ類	平年並	全域	4月下旬の発生量はやや少ない 5月の気温は平年並	－ ±
モモ	せん孔細菌病	平年並	全域	前年秋の発生量は平年並 4月下旬の発病枝率は平年並 5月の降水量は平年並	± ± ±
	ナシヒメシクイ	平年並	全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	±

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
モモ	モモハモグリガ	平年並	全域	4月下旬の被害葉率は平年並 フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	± ±
ブドウ	黒とう病	平年並	全域	前年の発生量は平年並 4月下旬現在、発生を確認していない 5月の降水量は平年並	± ± ±
	べと病	やや多い	全域	前年の発生量はやや多かった 5月の降水量は平年並	± ±
カキ	炭疽病	平年並	全域	前年の発生量は平年並 5月の降水量は平年並	± ±
	うどんこ病	平年並	全域	前年秋の発生量は平年並 5月の降水量は平年並	± ±
果樹共通	カメムシ類	多い	全域	越冬量調査による越冬世代成虫数は多い 4月下旬のフェロモントラップにおける誘殺数は平年並	± ±

・防除対策

【ナシ黒星病】

発病葉や発病果実は伝染源となるので取り除き、園外へ持ち出し処分しましょう。インダーフロアブル、デランフロアブルなどで防除を徹底しましょう。また、薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連用を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布しましょう。

【ブドウべと病】

アリエッティ水和剤、キノンドーフロアブルなどで防除しましょう。

【果樹共通・カメムシ類】

4月16日発表の「平成22年度病害虫発生予察注意報第1号」を参照してください。

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
タマネギ	べと病	平年並	全域	4月下旬の発生量は平年並 5月の降水量は平年並	± ±
トマト (施設)	コナジラミ類	平年並	全域	4月下旬の発生量は平年並	±
	黄化葉巻病	平年並	全域	4月下旬の発生量は平年並	±
ナス (施設)	ハダニ類	平年並	全域	4月下旬の発生量は平年並	±
	ミナミキイロアザミウマ	多い	全域	4月下旬の発生量は多い	±

・防除対策

〔ナス・ミナミキイロアザミウマ〕

各種薬剤に対する感受性が低くなっているため、天敵や微生物農薬による生物的防除を組み入れるなど総合的な対策を行いましょう。また、多発ほ場では、スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤、コテツフロアブルなどで防除しましょう。なお訪花昆虫を導入している場合は、薬剤の影響を考慮して防除にあたってください。

花き

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キク (露地)	白さび病	平年並	全域	親株での発生量は平年並 5月の降水量は平年並	± ±
	アブラムシ類	平年並	全域	黄色水盤における誘殺数はやや少ない 黄色粘着トラップによる誘殺数は平年並 5月の気温は平年並	— ± ±

参考

東海地方 1か月予報 (名古屋地方気象台4月23日発表)

〈予想される向こう1か月の天候〉

東海地方では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れる日が多い見込みです。週別の気温は、1週目(4月24日～30日)は低い確率80%、2週目は平年並または高い確率とも40%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い : 50% 平年並 : 30% 高い : 20%
〔降水量〕 少ない : 30% 平年並 : 40% 多い : 30%
〔日照時間〕 少ない : 30% 平年並 : 40% 多い : 30%

〈予想される天候の特徴〉

向こう1か月の天候は、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に高気圧に覆われて晴れる日が多い予報です。1週目には寒気の影響を受ける時期がある見込みです(4月25日～5月22日の晴れ日数の平年値は約16日)。

「農薬使用者のみなさんへ」

- 飛散防止にこれまで以上に留意し、農薬の適正使用に努めましよう。
- 農薬使用前にはラベルの内容を確認しましよう。
- 農薬散布後は、防除器具のタンクやホースも、洗いもれがないようにしましよう。
- 農薬は、安全な場所に鍵をかけて保管しましよう。
- 農薬の使用状況を帳簿に記載しましよう。

ポジティブリスト制度・農薬ドリフト対策については、
<http://www.pref.aichi.jp/byogaichu/minor.html> をご覧ください。